

華氏マイナス 320°

NODA・MAP 第28回公演

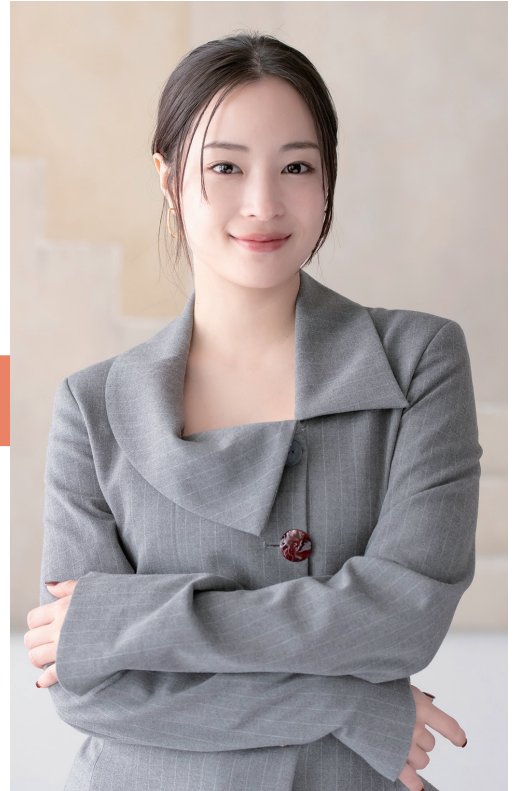
華氏マイナス320°

作・演出 野田秀樹

SPECIAL Interview 広瀬すず Vol.①

どんどん愛おしい作品に成長していった初舞台

2026年、野田秀樹率いるNODA・MAPの最新作が北九州に上陸する。阿部サダヲ、深津絵里をはじめとする豪華キャストの中でひとときフレッシュな存在感を示す広瀬すずにインタビュー。前半ではNODA・MAPへの初参加、海外ツアーも含めた初舞台の思い出について聞いた。



文：川添史子 撮影：野坂茉莉絵 ヘアメイク：永瀬多恵 スタイリスト：丸山晃

— 広瀬さんはNODA・MAP『Q』:A Night At The Kabuki(以下Q)(2019年)が初舞台でした。その後2022年の再演を経て今回が3度目の舞台出演になります。まず7年前、舞台に挑戦しようと思ったきっかけを教えてくださいませんか？

10代の頃から映像の世界で活動していて、ちょうど「カメラの前以外で演技をする経験をしてみたい」という感情がわいてきたタイミングに、野田さんのワークショップのお話をいただいたんです。これが想像していた以上に楽しくて、通い過ぎて野田さんに「これは(次の公演に)出るってことだね？」と聞かれるほど没頭してしまっただけです(笑)。感情優先でなく、解放された空間でまず声を出してみたり自由に動いてみる……しかもその表現方法も、これまで私がやってきた演技とは全く違う方法論。解放されるような感覚があったというか、夢中になれたんです。

— 初舞台初日はさぞ緊張されたのでは。

自分にとっては、ゲネプロ(最終舞台稽古)の方が「始まるぞ」という緊張感があった記憶があって、むしろ初日は全然緊張しなかったんです。1カ月間の稽古も経験したことがなかったですし、「やっとお披露目できる！」みたいな高揚感みたいなものが作用して、初日は楽しかった記憶しかないんですよ。初舞台で印象的だったのが、今回も共演する阿部サダヲさんが観客として『Q』を観にこられて、終演後

にみんなで楽屋でおしゃべりしていた時。急に「広瀬、途中で飽きるよ」と予言のようなことをおっしゃったんですね。その言葉に私、びっくりしちゃって。でも確かに「新しい刺激が必要かも」と考えていた時期ではあったんです。舞台って、俳優にとっては回を重ねていても、その日いらっしゃるお客様にとっては貴重な1回。この温度感のギャップを埋めるため「皆さんは新鮮さを保つためにどんなマインドで向かわれているのかな？」と気になり始めていたタイミングだったんです。

— さすが百戦錬磨の阿部さん、示唆ある鋭い一言だったわけですね。『Q』では松たか子さんという、これまた存在感ある先輩との共演でもありました。

松さんは本番が始まる前、必ず出演者全員と「よろしくお願いします」とハグされるんです。これが素晴らしい効果というか、チーム一丸となって舞台に出ている感覚を生むんですね。

野田さんも声(音)やリズムが間のびしないよう日々細かいアドバイスをくださるので、毎日少しずつ調整していけましたし、そうやって千鶴楽に向けて「明日こそ」を続けて、どんどん愛おしい作品になっていきました。

— 『Q』再演ツアーでは最後に英国公演も経験されました。

お客様がストレートに感情表現する海外公演ではまた違う刺激を受けましたし、「始まったものは、いつか終わるんだなあ」というしみじみした感慨と、長い公演期間を無事に「乗り越えたぞ!」という嬉しさの両方がありました(笑)。一つひとつの公演の記憶が濃厚なので、さらに達成感が得られました。でも「今日はこれをテーマに頑張ろう」とか「今日はあそこを修正してみよう」と日々課題を持って舞台に立っていたら、あっという間でしたね。再演の方がより早く感じたかもしれません。

Information

NODA・MAP 第28回公演「華氏マイナス320°」

6月6日(土)～14日(日)

J:COM北九州芸術劇場 大ホール

[作・演出]野田秀樹

[出演]阿部サダヲ・広瀬すず・深津絵里

大倉孝二・高田聖子・川上友里・橋本さとし・野田秀樹・橋爪功

公演情報詳細はこちら



当日券全公演販売

4月19日(日)10時 高校生割引シート発売開始!